

# 子どもの絵に対するかかわり方 —幼児教育と初等教育の差に注目して—

初等教育教員養成課程 幼児教育選修 小中友香

## I. 問題と目的

筆者は、小学校での教育実習において、図画工作科の指導教員から「小学校ではどうしたらその作品がもっとよくなるかの言葉かけをしなさい」と指導を受けたが、子どもの作品に対して自分の価値観からよりよくなる方向を示すことに違和感を覚えた。幼稚園教育要領にも小学校学習指導要領にも、子どもの感性を生かし、子ども自身が主体的に造形活動を行えるようにすることが記されていた。子どもとの適切なかかわり方とはどのようなものか、幼児教育を専攻する学生と初等教育を専攻する学生にアンケート調査を行い、研究を行う。

## II. アンケート調査

### 1. 目的と方法

#### (1) 目的

幼児教育科、初等教育科の学生が子どもの絵をどのように捉え、どのようにかかわることが適切であると考えているのかを知る。また、絵を通した子どものかかわり方が、自身の描画に対する好悪（絵を描くことが好きか、嫌い）や苦手意識の高低（絵を描くことが得意か、苦手）に影響を受けるかなども注目して分析する。

#### (2) 調査の概要

愛知県K市の幼稚園の年長組に通う6歳男児の描いた自由画（図1）、6歳女児の描いた模写画（図2）をもとに質問紙を作成し、その2枚の絵と模写対象の写真1枚を見せながらアンケート調査を行った。

調査対象者は、本大学に通う長期教育実習を終えた大学生、幼児教育科：37名、初等教育科：88名（国語選修：28名、音楽選修：20名、美術選修：21名、家庭選修：19名）の計125名で、調査期間は平成26年11月中旬から下旬である。



図1 自由画

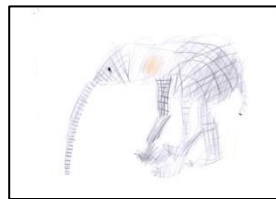


図2 模写画

### (3) 分析手順

子どもの絵を見た時の印象と、子どもに行う行動を15要素に分類した。本研究では、幼児教育科と初等教育科の学生での子どもの描画に対するかかわり方の違いを分析する。また、印象によって行動に変化が見られるのか、自由画と模写画で印象や行動の違いが見られるのかを比較し考察していくため、同じ視点で分析できるように、それぞれの印象や行動の意味に含まれている要素の内容により分類した。（表1、表2）

表1 子どもの絵に対するかかわり方15要素

A	絵に対する率直な感想（+）
a	絵に対する率直な感想（-）
B	絵を描く能力に対する抽象的な感想（+）
b	絵を描く能力に対する抽象的な感想（-）
C	絵を描く能力に対する具体的な感想（+）
c	絵を描く能力に対する具体的な感想（-）
D	表現に対する感想（+）
d	表現に対する感想（-）
E	絵を描いたこと自体に対する認め
F	絵を描いた子どもの気持ちに対する共感
G	絵の読み取り
h	描かれていないもの、間違っ て描かれているものに対する指摘
I	疑問
J	さらに想像がふくらむような行動
K	絵の加筆・修正を求める

表2 15要素の大カテゴリー

A,B,C,D	E,F	J	a,b,c,d,h,k	G,I
褒め	認め			
ポジティブ			ネガティブ	

## 2. 結果と考察

### (1) 自由画を見た時の印象と、子どもに行う行動について

幼児教育科、初等教育科ともに、何が描かれているかを読み取ろうとする人が6割以上で最も高かった。また、子どもに行う行動では、読み取った内容の確認や「これなあに？」という質問をする割合が最も高く、自由画において、多くの大人

は子どもが何を描いたのかを読み取ろう、知ろうとすることが分かる。

幼児教育科では、絵を描いたこと自体に対する認めや子どもの気持ちに対する共感をする割合が、印象、行動ともに初等教育科の約2倍であった。さらに絵を見た時の印象として「ご飯を食べている絵かな?」「足がないのは何でだろう?」など、決めつけた読み取りや、間違いや欠損の否定を避ける回答が見られた。一方初等教育科では、絵全体の印象や絵の表現方法における絵の良い部分を探し、褒める割合が幼児教育科に比べて高かった。認めや共感については、印象より行動の割合が低く、一生懸命描いたのだなと感じていても、その気持ちを言動で伝えようとする人は少ない。以上から、幼児教育科では子どもの自由な発想や描画を受け入れようとする傾向があり、「絵を描くという行為」自体を認めようとするが、初等教育科では絵の上手さに重点が置かれ、「描いた絵」自体を褒めようとする人が多いと考えられる。

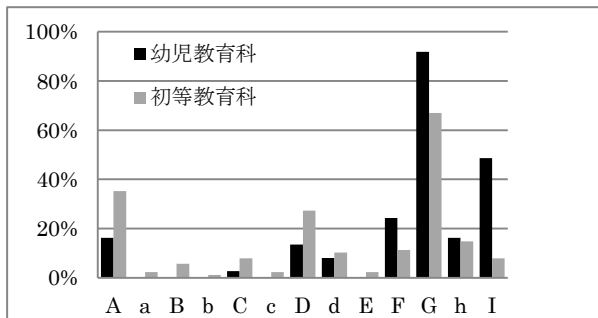


図3 自由画の印象

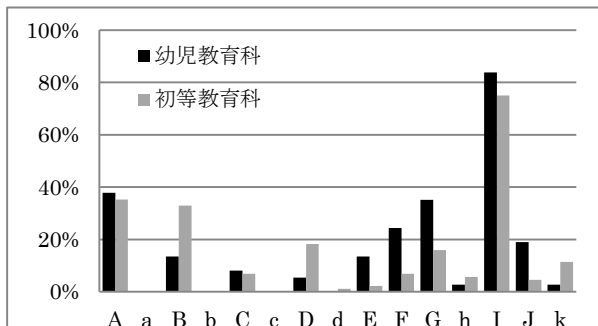


図4 自由画の行動

## (2) 模写画を見た時の印象と、子どもに行う行動について

幼児教育科、初等教育科ともに、絵を描く能力や表現方法について良く描けている部分を具体的に探す割合が最も高く、子どもに対して「褒める」行動をとる割合も90%以上にのぼった。模写画では正解となる模写対象が存在するため、描かれた

絵と細かく見比べることができ、自由画に比べるとより褒めやすかつ内容も具体的になったと考えられる。

幼児教育科では「このぞうさん何してると思う?」など、さらに想像がふくらむような言動をする割合が2番目に高く(35%)、「一生懸命見て描いたんだね」などと認める割合が初等教育科の2倍以上であった。一方初等教育科では細かな間違いや欠損を見つけて、加筆・修正を求める割合が幼児教育科より高くかつ、自由画よりも高かった。幼児教育科は、模写画を子どもが自発的に「模写した」遊びの中の一つの絵として捉え、模写したという子どもの姿を認めるとともに、さらに想像を広げられるようにしていると考えられる。対して初等教育科は、教育者が「模写させた」絵として捉え、より正確に描き写す能力を高めるとともに、絵の描き方が分かるようにしていると考えられる。

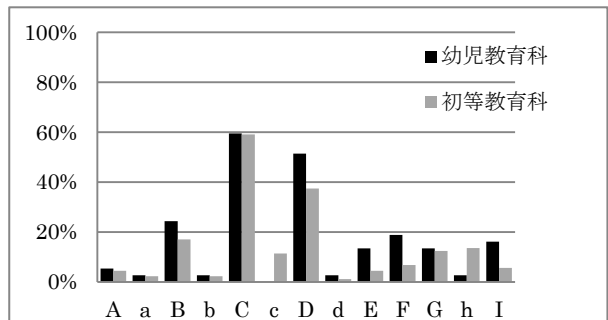


図5 模写画の印象

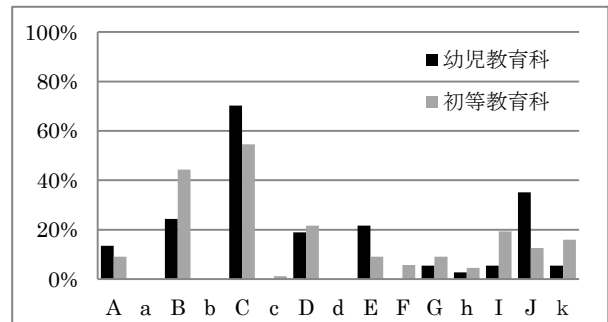


図6 模写画の行動

## (3) 印象と行動の変化について

ネガティブな印象または行動をとった回答者を対象に、印象と行動の変化を比較した。○はネガティブな印象を全くもたない回答、△はポジティブな印象とともにネガティブな印象をもつ回答、×はポジティブな印象を全くもたない回答を示しており、黒抜き(●、▲、✕)は行動の回答を示している。なお、G要素(絵の読み取り)とI

要素（疑問）はポジティブ要素でもネガティブ要素でもないため、例えば印象で「G,h」要素をもつ回答者がいたとしても、全くポジティブな印象をもたない回答“×”に分類するというように、G,Iは分類に影響を及ぼさない要素とした。

自由画、模写画ともに、幼児教育科はネガティブな印象をもっていたとしても、全く行動には移さない人が半分以上いた。また、行動に移す人も褒めや認めなどのポジティブな行動とともに、ネガティブな行動のみをとる人は1人もいなかった。対して初等教育科は、少数ではあるもののネガティブな行動のみをとる人がいた。記述の仕方に「さらによくなる」というニュアンスが含まれているものも多く、絵をよりよくするためにという思いをもった行動だと感じ取れる。回答者自身に絵を否定しているという意識があるとは言いきれないが、幼児教育科に比べると認め行動が少ないことから、子どもにとっては描いた絵が受け止めてもらえないと感じる機会が小学校では増えると考えられる。

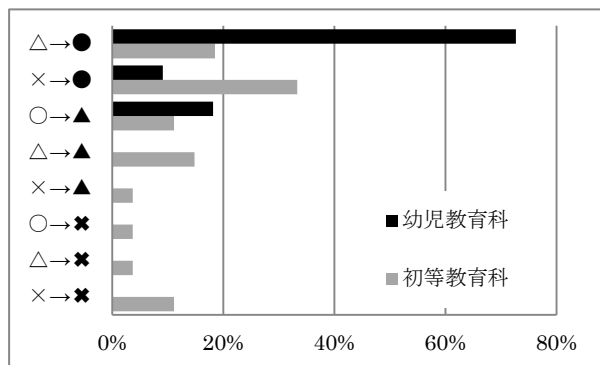


図7 自由画の印象と行動の変化

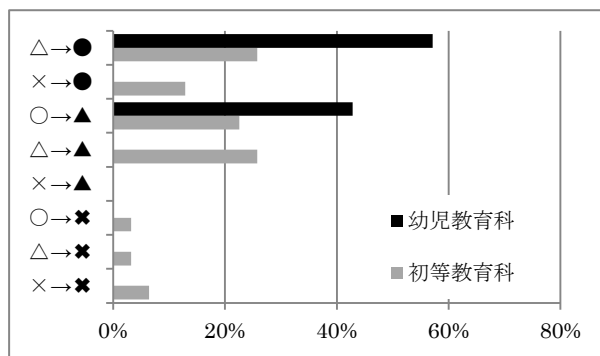


図8 模写画の印象と行動の変化

#### (4) 子どもの絵に対する指導観について

子どもの絵と向き合う時、多くの人が子どもの描いた絵を「ほめること」、絵から「子どもの気持ちを読み取ること」が大切であると感じていた。

これらに加えて幼児教育科は「子どもの個性、感性、発想を肯定的に受け止めること」も大切であると感じており、多くの人が指導の意味を「絵を描くこと、表現することの楽しさを伝えること」だと捉えていた。絵を描く楽しさを感じられるように、子どもの行動に対して認めや共感を多く行うかかわり方をしていると考えられる。一方で初等教育科では、割合は少なかったものの「さらによくなるアドバイスを具体的にすること」が大切だと感じている人もいた。また、指導の意味を「自分の表現したいことが表現できるように絵を描く方法、技術、技法を教えること」「子どものある部分（想像力、表現力、個性など）をよりよく向上させる」ことだと捉えている人が多かった。これらの結果から初等教育科は、指導を通して何が「できる」「わかる」「伸びる」などの成長を目指してかかわっていることが分かる。以上のような指導観の違いが、子どもの絵に対するかかわり方にも表れたのだと考えられる。

しかし、指導の意味を問われると、幼児教育科では「子どもの描いた絵をよりよくするために教えること」だと捉えている割合が最も高く、「よく分からない」と答える人もいた。幼児教育科にとっては、自分が子どもに対して行うかかわり方を「指導」として捉えておらず、指導とは教育者が子どもに教えることという印象をもっていると考えられる。また初等教育科においても、指導とは「個性を潰すこと」「教育者のあってほしい姿に仕向けること」という否定的な感情を抱いている人がいた。幼児教育科を中心に、子どもの絵に対して大人の価値観で上手と思われる方向を示すべきではないと考えている人がいることが分かる。

初等教育科の回答の中で「よりよいものを目指そうとする態度を育てるために指導は必要である」という回答があった。絵を評価することはマイナスイメージが強いが、評価される・評価するという経験がよりよいものを目指そうとする態度を養うことにつながるとも考えられる。否定するまではしなくとも「あなたならもっといいものができるよ」など評価の仕方を工夫すれば、もっといいものをつくらうとする向上心へつなげられるのではないかと。すべてを受け入れるだけでなく、子どもの可能性を信じて評価をすることも、時には必要なのかもしれない。

### (5) 描画に対する意識について

描画に対する好悪（絵を描くことが好きか嫌い  
か）にも、苦手意識の高低（絵を描くことが得意  
か苦手か）にも、幼児教育科と初等教育科で大き  
な差はなかったため、子どもの絵に対するかかわ  
り方の違いはそれぞれの専攻での学びに影響を受  
けていると考えられる。

描画に対する意識ごとにかかわり方の傾向を調  
べると、絵を描くことが嫌いな人は、子どもの絵  
をネガティブに捉え、ネガティブな行動を起こす  
割合が高かった。描画活動に対して否定的な感情  
をもっている人は、子どもの絵に対しても否定的  
な視点を持ちやすいと考えられる。しかし、絵を  
描くことが嫌いな人と苦手な人は、模写画におい  
て認め行動を起こす割合が高かった。模写画は模  
写対象が存在するため、正確さが求められるとと  
もに、人から評価を受けやすい。よって、描画が  
嫌いまたは苦手な人は、対象物を正確に模写する  
大変さをより強く感じている可能性が高い。それ  
を想像して、子どもに対してがんばって模写をし  
たという努力を認めやすいと考えられる。

また、教育者から「上手だね」などとほめられ  
ることを“うれしい”と感じ、絵を描くことが好  
きになる人がいる一方で、かかわってもらえない  
自分、ほめてもらえない自分を比べて絵が嫌い  
になる人がいた。ほめることは決して悪いこと  
ではないが、特定の絵が上手い子ばかりをほめる  
ことや、上手いとは感じない子に対して全くか  
かわりをもたないことが、個人の描画に対する  
意識だけでなく、根本的な自信を喪失させかね  
ないことを意識しておく必要がある。

“描画が嫌い”と感じる理由で最も割合が高  
かったのは「絵を上手く描けないから」という  
苦手意識であった。子ども自身に絵を描きたい  
という意欲があるのに、教育者からの適切な働  
きかけがないことで、絵を描く意欲が損なわれ  
、嫌いになってしまう人もいる。一方で絵の描  
き方や技術を教育者に教えてもらったことで、  
絵を上手に描けたことに喜びを感じる人もい  
る。“上手に描ける”ことが“好き”という感  
情につながりやすいのならば、自分の思い通  
りに絵が描けるように絵を描く方法や技術を  
教えることや、どうしたらもっとよい絵にな  
るかというアドバイスをすることも必要だと考  
えられる。さらに、絵を描くことが好きな  
人の多くは、絵を描くことを単純に“楽しい”

と感じている。また、絵を描くことが得意な  
人の多くは、小さい頃からたくさんの絵を描い  
てきたから得意であると答えていた。絵を描く  
ことが好きでなければ、たくさんの絵を描き  
続けることはできないだろう。したがって“得  
意だ”と感じるためには、“好きだ”と感じ  
ている必要があると考えられる。

### 3. まとめ

教育者として子どもに教えるべきことの一番  
は“描画の楽しさ”だと考える。“好き”“楽  
しい”という感情は“もっとやってみよう”  
という原動力となり、何度も繰り返す中で、う  
まくできるようになるとともに新たな発見や学  
びが獲得できる。

筆者は、子どもの表現を否定することなく十  
分に認めることが最も大切であると考えていた  
が、今回の研究を通して、子どもの表現を十分  
に認めることはもちろん、表現したいことが表  
現できるように技術や技法を教えること、上手  
く描けるようなアドバイスも必要であると感じ  
た。しかし、それらのかかわり方の根本には「  
子どもが絵を描くことが楽しい」と感じられ  
るようという思いが必要である。“楽しい”  
という気持ちの根源は、思い通りに描けたこ  
とに対する達成感や満足感、絵は自由に描い  
ていいという安心感など様々に考えられるが、  
その子が“楽しさ”を感じられるかわりを一  
人一人に合わせて行うことが重要だろう。そ  
れは幼稚園教育と小学校教育での目的が違  
うとしても、それぞれの発達に合わせた形で、  
自己表現としての描画を子どもが楽しいと感  
じられるようにかかわるべきだと考える。

### III. 引用・参考文献

- ・文部科学省（2008）「幼稚園教育要領解説」株式会社フレーベル館
- ・文部科学省（2008）「小学校学習指導要領解説 図画工作科編」日本文教出版株式会社
- ・乙訓稔（2011）「幼稚園と小学校の教育—初等教育の原理—」株式会社東信堂
- ・磯部錦司（2006）「子どもが絵を描くとき」一藝社
- ・田中義和（2011）「子どもの発達と描画活動の指導 描く楽しさを子どもたちに」株式会社ひとなる書房